



共に学び 共に育ち 共に生きる「地域共生社会」の実現を目指して

日向市社会福祉協議会 事務局長 三輪 勝広



「よのなか先生」との出会い、日向市役所を平成29年3月に定年退職し、再任用職員として働く中で、第二の人生、何か社会で役立つことがあったらとの思いからでした。

最初の「よのなか教室」は、平成29年11月に東郷学園の5年生を対象に「福祉や手話を学ぼう!!」をテーマに話をさせていただきました。子どもたちの熱心な姿勢に感動しました。私も40年余り地域で手話や福祉、ボランティア活動に関わり、また、行政の立場で「手話通訳制度化」や県内初となる「手話言語条例」の制定などにも関わってきました。誰もが安心して暮らせる「地域共生社会」の実現を目指して、子どもたちに地域でのふれあい、支え合いの大切さ、そして、障がいのある人たちに対する合理的配慮についての理解が広がり、「思いやりのあるやさしい共に生きる心」「福祉の心」が育ち、「福祉の仕事」に関心を持ってもらえればと思っています。

地域社会の中で子どもや地域の方々と共に学び、課題を解決しながら共に成長していく、そして、共に生きる「よのなか先生」として「キャリア教育」の推進にお役に立てれば幸いです。

「家庭の中にも、キャリア教育の宝あり」

日向市教育委員 黒木 知子



私は3兄弟の長子として育ちました。私の母は、私達3兄弟が幼い頃には、それぞれの特徴を見抜き、それぞれ違った習い事をさせたり、塾もそれぞれに合う所に通わせたり、学校ではできない貴重な経験もたくさんさせてくれました。そうしながら母は、さらに私達の事を静かに且つ、鋭く見つめ、私達が小学校を卒業するまでには、将来の道筋を粗方決めてしまいました。その母の作戦に上手く乗せられた私達は現在、私:ピアノ講師、弟:大学教授、妹:薬剤師となり、それぞれの職業に誇りとやり甲斐を感じ、幸せな生活を送っています。

母は、長年に亘る作戦が成功した際は、喜びというより大変ホットしていました。作戦の途中(弟が大学受験の寸前)、父が突然死してしまい、母の計画が崩れそうになったからです。母は悲しみのどん底の中、必死で作戦を続行しました。今では、3兄弟とも母には感謝しかありません。我が家のケースは大変稀だとは思いますが、母が、私達が生まれてから職に就くまでの長い間、工夫や努力して環境を整え準備してくれたこと、また、逆境を乗り越え進む姿を隠さず見せてくれた事などを振り返ると、母流のキャリア教育であったと思います。

私は、それぞれのご家庭の中にも、キャリア教育の宝が山のようにあることを意識して生活して欲しいと願います。

「子供たちから、教わること」

藤屋印刷株式会社 常務取締役 三浦 亨



平岩小中学校8年生が移住のパフレットを作るということで3回授業をさせていただきました。平岩に移住してもらうためのパフレットを製作すると言うことは普段気づかないコトやモノなど平岩に存在する多くの魅力を生徒が再認識するきっかけになると思いますし、郷土の豊かな伝統や文化を尊重し、「郷土愛」の意識を高めることにもなると思います。

まずは、平岩の良さを発表してもらったり、パフレットを手にとってもらうためデザインを説明していますが、理解してくれたのか、興味を持ってもらえたかと終わってから反省しています。

人に教える、伝える作業は日々の仕事の中で行っていますが、相手が理解できるように話す難しさ、私の勉強不足を痛感させられます。そのような状況でも、生徒の感想文を読んで、少しはお役に立ったのかと安心していきます。

今後どれだけのことを伝えられるかわかりませんが、弊社の理念である「伝える力で 人に元気を 街に活気を」を話していこうと思います。

「キャリア教育支援センターの7年間を振り返って」

日向商工会議所 専務理事 黒木 正一



平成25年8月、キャリア教育支援センターは、子供たちが自立した社会人・職業人として、たくましく社会を生き抜くために、社会的・職業的自立の基礎となる能力や態度を育てることを目的に商工会館の2階に開所しました。

「日向の大人はみな子供たちの先生」をスローガンの下、子どもたちの学ぶ意欲を高め、将来を考えさせ、「学力と生きる力」を向上させる「よのなか教室」を「よのなか先生」、事業所のご理解ご協力をいただき、キャリア教育事業を強力に推進して参りました。また、この事業活動が、高く評価され、文部科学大臣・経済産業大臣賞を授賞し、今では、毎年、全国各地から多くの行政・議会の方々が見学に訪れています。

依然として、生産年齢人口減など産業界を取り巻く環境は厳しい状況であります。私は、真の地方創生は、社会に貢献できる人材育成の中で、「郷土を愛し」、将来において「日向市を振り向いてくれる子供たち」をいかに多く輩出するかと考えます。

今後もさらに教育界と市民、産業界がワンチームになり、「よのなか教室」と「14歳のよのなか挑戦」が、先生方の負担の軽減と併せ、児童、生徒、PTAからも評価される充実したまちづくり活動へと発展することを願っています。大変お世話になりました皆様へ深く感謝申し上げます。今月末をもって退任いたします。誠にありがとうございました。



高校生「よのなか教室」開催 2月5日

県立高校の推薦入試の日、高校生が出身中学校に向き、中学校2年生に「中学校と高校の違い」、「高校生活」などを語った。後輩たちは、真剣に先輩たちの話に聴き入っていました。

日向中学校 2年生 75名

先輩8名
(日向高校、富島高校、日向工業高校、門川高校)



東郷学園 8年生 18名

先輩5名
(日向高校、富島高校、日向工業高校、延岡高校)



みやざき教育フォーラム 2020

2月20日開催

主催：宮崎大学教育学部、宮大教育共同開発センター

共催：県教育委員会 場所：宮崎大学

「キャリア教育」をテーマに、実践校がどのようにカリキュラム改善を行って来たかを「キャリア教育の特質と課題—新たな職場体験の実践を中心に」と題して大王谷学園黒田先生、(株)マルイチ高木さん、伊勢ヶ浜保育園青木さんがリレー報告。

県内の県立、公立学校の先生方、企業、学生約200人が出席しました。



第19回 「よのなか先生」等 研修会のお知らせ

■とき 2020年5月22日(金)

■ところ 日向市役所委員会室

①14:00~16:30 キャリア教育担当者会

②14:30~16:30 「よのなか先生」研修会

詳細は別途、案内します。

編集後記

新型コロナウイルスの感染が世界的に止まりません。困ったものです。様々なイベント、行事が中止、延期を余儀なくされ、オリンピックパラリンピックも1年延期。私たちの日常生活、経済活動も制約される状況にあります。

門出を祝う卒業式も挙行するのに大変苦労されたと聞いています。新学期は、子どもたちの明るい笑顔が見られることを願っています。(A・T)